

第 23 期 事 業 報 告

(自平成27年4月1日 至平成28年3月31日)

1 株式会社の現況に関する事項

1-1 事業の経過及び成果

平成28年度までの4年間の京都市との京都市勧業館指定管理者協定期間の3年目となる今期は、次期指定管理者選定の実績づくりとして重要な年であり、平成24年7月に指定管理者の公募選定で提案した経営計画、事業計画を社員一丸となって着実に実施し、施設の健全な運営に取り組んできました。

その結果、平成27年度における会社全体の売上高は、本業である勧業館の稼働率が昨年度を下回り、売上原価や販管費の上昇等により施設運営の面では厳しい状況でしたが、駐車場及び物販部門が好調だったことにより、昨年度に比べて11,035千円増の851,518千円となりました。

当社の主要事業である勧業館事業については、「多目的に利用できる施設だと知ってもらう」取組の成果は見みられつつも、ご利用の希望は、新春から春及び秋、かつ週末に集中する傾向にあり、お問い合わせをいただくも成約には至らず、稼働率は昨年度を4ポイント余り下回る47.10%に止まりました。4月には全館規模の学会が開催されるなど上半期の稼働率は好調でしたが、下半期において昨年度に匹敵する大型催事の新規獲得に至らなかったことで年間稼働率が失速してしまいました。しかしながら、催事運営面における総合サービス、サポート体制の充実を図る取組については、引き続き良い評価をいただいております。次年度につなげていきたいと考えています。

なお、平安神宮前の公園化、ロームシアター京都のリニューアルオープン、市美術館での人気催事の開催等、当館の駐車場利用につながる環境が整備され、駐車場の利用料収入が大幅に増加したため、展示場稼働率の低下による利用料収入は減少しましたが、施設利用料収入全体の合計は561,091千円となり、昨年度に比べ3,472千円の減に止まりました。

京都伝統産業ふれあい館ミュージアムショップ事業については、国内外の観光客並びに展示場の催事に来られたお客様やその関係者のお買い上げが好調だったこと等から、商品売上は昨年度を約4%上回る50,421千円となりました。また、今年度から免税店として登録し、パンフレットや看板で外国人観光客等への周知を図ってきたことも売上増加に貢献していると考えます。

自主企画事業については、昨年度に引き続き、閑散期にあたる7月下旬から8月上旬にかけての長期日程で「電車王国inみやこめっせ」を開催いたしました。有料のイベントですが、昨年度を上回る大勢の市民の方、特に年少の子供を連れてご家族にお越しいただき、成功裏に終えることができました。その他、春は「桜まつり」、秋は「かがやきめっせ」、さらに伝統産業の日の協賛事業「京ものフェスティバル」等の事業を確実に実施し、地元岡崎地域

の賑わいの創出のみならず市民の生活文化の向上にも貢献もできたと考えます。

京都館事業については、下半期は売上が伸びず苦戦いたしました。上半期の特設コーナーの売上が好調だったことから、年間の商品売上高は昨年度を約7%上回る 153,682 千円を確保することができました。また、京都館においても10月から免税の取扱を開始し、来館された外国人の方々に好評を得ております。

費用面では、引き続き経費の節減に取り組む一方、指定管理者として年間120万人を越す来館者の安全確保はもとより、勸業館をご利用いただく方々の満足度を向上させるため、施設の修繕、備品の充実に取り組み、今期は二条通りから直接レストランに入店いただけるように前庭側の扉を改修いたしました。これによりレストランの前庭をテラスとして利用できるようになり、二条通りの賑わいの創出にもつながっています。また、京都市の負担で入退室管理システムの更新(約 97,000 千円)を行っていただきましたので、当社負担としては大掛かりな修繕は実施いたしませんでしたが、経年劣化等による修繕が増えたため、修繕費が昨年度よりも増加するなど販管費が増加いたしました。売上原価についても、施設負担金が昨年度より 10,000 千円増額になったこと及び商品売上の増加に伴い商品仕入高が増加したことにより増加いたしました。

以上のことから、昨年度より売上高は増加したものの売上総利益、営業利益及び経常利益ともに減少するという結果となり、今期の税引前当期純利益については、昨年度を 12,660 千円下回る 25,807 千円となりました。

1-2 直前三事業年度の財産及び損益の状況

区 分	第20期	第21期	第22期	第23期 (当事業年度)
売上高	800,542 千円	818,986 千円	840,483 千円	851,518 千円
当期純利益	23,964 千円	21,460 千円	25,463 千円	17,626 千円
一株当たり当期純利益	13,313 円 74 銭	11,922 円 37 銭	14,146 円 58 銭	9,792 円 41 銭
純資産	399,666 千円	421,126 千円	446,590 千円	464,216 千円

1-3 当該事業年度における主要な事業内容

当社が現在行っている事業の主なものは、次のとおりです。

(1)勸業館事業

展示場及びその付随施設、会議室、ギャラリーの貸出、展示会の企画運営サービス、
駐車場管理

(2)京都伝統産業ふれあい館ミュージアムショップ事業(「京紫苑」の運営)

伝統工芸品の販売

(3)自主企画事業

電車王国 in みやこめっせ, 伝統産業の日 in みやこめっせ協賛事業・京ものフェスティバル及び桜まつり, かがやきめっせ(以上岡崎魅力づくり推進協議会コラボレーション事業)等の実施

(4)京都館事業

京都市受託事業の実施(京都館の運営, イベントの実施, 京都情報の発信等)及び京都製品の販売

1-4 当該事業年度の末日における主要な営業所及び使用人の状況

(1)主要な営業所

本店 京都市左京区岡崎成勝寺町9番地の1

東京支店 東京都中央区八重洲二丁目1番1号 ヤンマー東京ビル1F

(2)使用人の状況

従業員数 (うち, 臨時社員数)	前事業年度末比増減
37人 (14人)	1人減

(注)従業員数には, 臨時社員を含んでいます。

2 株式に関する事項

2-1 株式数

(1)発行可能株式総数	4,000 株
(2)発行済株式の総数	1,800 株
(3)当事業年度末の株主数	9 名

2-2 株主及びその持株数

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
京都市	1,080	60.0
京都府	100	5.6
京都商工会議所	100	5.6
公益財団法人京都伝統産業交流センター	100	5.6
公益社団法人日本図案家協会	100	5.6
株式会社三菱東京UFJ銀行	90	5.0

株 主 名	持 株 数 (株)	持株比率 (%)
株 式 会 社 京 都 銀 行	90	5.0
京 都 信 用 金 庫	80	4.4
京 都 中 央 信 用 金 庫	60	3.3
合 計	1,800	100.0